

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700029		
法人名	特定非営利活動法人 フミリサポートおひさま		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	〒028-0024 岩手県久慈市栄町32地割37番地9		
自己評価作成日	令和5年9月25日	評価結果市町村受理日	令和6年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人理念“心”「心をこめてケアさせていただく」「心の通い合うケアをさせていただく」「感謝と尊敬の心でケアさせていただく」という理念を常に心掛け、利用者様との関りを大切にしている。一人ひとりの症状、個別にあったケアをしていくために「気づき」を大切に、安心して生活していただけるよう全職員で情報共有し取り組んでいる。 また、利用者様に喜んでいただけるよう食事は地場産、季節のもの、時に菜園で収穫したものを取り入れ、栄養バランス、彩、盛り付け方に気を配り、個々の形態にあわせて提供している</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>中学校が隣接するほか、小学校や高校も近くにあり、市街地の文教地区に位置している。同一敷地内には、小規模多機能ホーム等複数の施設を有し、児童生徒との活発な相互交流や地域の方々との暖かな交流が行われている。現在はコロナ禍のため、以前のような交流ができていないが、常に地域の一員であることを意識し地域とのつながりを大事にした事業所運営に努めている。施設長である法人理事長や管理者が先頭に立ち、職員全員が自己評価や日々の振り返りに積極的に参加し、地道な自己分析を積み重ねている。常に理念を大事にし、権利擁護の意識を忘れない姿勢で、職員が講師となつての研修の充実、個々の行動目標と支援のつながりを明記したケアプランの作成、また災害訓練の結果を踏まえたマニュアルの改訂等により、安心安全なケアの質的レベルの向上に努めている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、施設内に掲示し全職員共有できている。研修会を行い確認・意識づけしケアにつなげている。ケアを行う時、迷った際の指針になっている	事業所として、理念の下に具体的な実践目標である施設ケア基準を設け、施設内に掲示し共有しており、日々の業務の基本として常に利用者一人ひとりのケアに当たっている。新人職員に対しては新人研修の基礎項目として理事長が教示し、また、毎月1回開催している職員研修においても研修テーマの一つとして、理念の共有と実践の推進に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。新型コロナウイルスは5類へ移行したが日常的な交流は難しいが、避難訓練時には毎回協力をいただいている。毎月市広報を届けてくださり、利用者様が読んでいます。また掲示板を活用し地域へ情報発信を行っている	コロナ禍前は、近隣の小中学校による楽器演奏の慰問やボランティアの事業所清掃、中学校、高校の体験学習のほか、地域の方々の踊りの披露など、活発な交流が行われていた。コロナ禍後も日常的な交流は難しいものの、事業所の掲示板を活用して継続的に地域に情報発信しているほか、中学校の認知症サポーター研修に理事長が講師として出席していることなど、現状で可能なことを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口の設置もしており、相談を地域包括支援センターに繋げるシステムがある。入所相談等の機会にご家族様の話を傾聴している。また関係機関の紹介等も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、新型コロナウイルス感染状況により会議開催と書類議事の場合がある。ひだまりコロナ感染により令和4年8月以降は実施していない	法人全体としての人的確保面での緊急課題もあって、「まずは、利用者へのケアサービスの優先的確保や職員個々の業務量に対する心身の健康面の配慮等をすべき」、との判断のもと、やむなく運営推進会議の開催に至らなかったとのことであるが、今後は開催資料の簡易化等の工夫を加えながら、再開に向かっていきたいとしている。	多様な機会を活用し、グループホームの事業所自体の内容や活動の実際を地域の方々から理解してもらい意見をいただくことは、職員や事業所にとって、たいへん大切なことです。既存資料の活用等による業務簡素化などの工夫も図りつつ、運営推進会議を開催しながら、職員の皆さんの日々の努力について、地域への適切な周知が一層進むことを期待します。

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進員の中に市町村担当者がおり、実情や取り組みを伝え協力をいただいている	地域包括支援センターとは、日頃からケアマネージャーと情報交換しながら交流を深めているほか、最近力を入れている認知症のVR研修等には出来る限り参加している。また、コロナ対策室の保健師には対策について様々な相談に乗ってもらうなど、市からは多くの支援・協力を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における施設理念・方針及び身体拘束排除マニュアルがあり、定期的な研修やチェックリストで確認している。また、アンケートにて各スタッフの声を聞き、利用者様の尊厳を守ることに真摯に取り組んでいる。身体拘束を行わないための勉強会を行い疾病の理解を深め一人一人を尊重した適切なケアに努めている。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみ施錠している	身体拘束防止委員会は3か月に1回開催しているほか、中堅職員と新人職員がペアで講師となる「研修会」も3か月毎に開催している。また、独自のチェックシートにより職員全員が自身の業務の振り返り・確認を行っているほか、その結果を集計し、それぞれの気づきを促すよう、見やすい工夫をして丁寧に取りまとめ、理事長の意見を含め職員にフィードバックする、一連のケアシステムとして確立されている。	中堅職員と新人職員がペアで講師を務めていること、独自のチェックシートにより振り返り・確認を行い、さらにその結果を見やすい工夫をしてフィードバックしていることなど、事業所固有の取組と思われます。職員の皆さんが可能な範囲で、さらなる工夫を加えながら、前向きな改善を継続されていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となりアンケートや研修会を行っている。言動・行動・ケアの仕方について各職員がお互い確認しあっている。自立を妨げるケアについても意見交換し共有している。また着替えや入浴時身体の観察をし、傷等がみられたときは報告し職員間で共有しどのようにしてできたものか、原因究明するため話し合いをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、法人ペア研修会では、ひだまりスタッフや他事業所スタッフが講師となり、制度の理解・活用の仕方を学び理解を深めた。また具体的なケア場面を想定し対応方法や関わり方について意見交換を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時やサービス契約時、介護保険の改正に伴う変更の際には文書と十分な説明を行い、疑問や不安な思いを減らし理解・納得いただくよう努めている		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や通院支援時、心配事や要望などの情報収集に努めている。ご家族の不安が解消されるよう席替えや部屋替えも検討し実施している	多くの家族が月1回は面会に来訪されることから、毎月、利用者ごとに作成している「ひだまり通信」に利用者の詳細な状態を記載して伝えている。ケアプランの見直しに対する意見等を含め、面会時に家族の意向・要望を確認するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長との面談を実施している。月1回のリーダー会議では職員の意見や提案、委員会活動の報告や検討を行い運営に反映させている。また職員へのアンケートは事業所の運営や要望を伝える機会となっている	理事長が年1回、職員面談を行っているほか、「理事長への手紙」として、随時、どんな小さなことでも理事長に直接伝えたり聞いたりできるようになっている。また、毎年、職員アンケートを実施しており、職員の待遇や施設の状況など、事業所の環境について意見を出してもらっている。それらを通じて事業所の環境改善に職員の意見が反映されるとともに、職員のモチベーションが上がる取り組みも生まれている。「施設対抗のレクリエーション大会」や「あいさつ運動」(挨拶されて嬉しかったら付箋を一つはる、付箋1枚が39[サンキュー]円であり、その合計金額を県内ラジオ放送の年末チャリティ募金に寄付をする)も職員の意見による。このように職員の意見を運営に反映する仕組みのシステム化に取り組んでいる。	職員意見を運営に反映するためのシステム化に取り組んでおり、職員のモチベーション向上に向けてユニークな活動も行われている。今後も職員が自由に意見を出し合える環境づくりに努め、職員が楽しいと思える職場づくりを、さらに進めていかれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は入社時一律となっているが、経歴、勤務状況、資格取得により賃金の引き上げを行っている。各自の能力に合わせた研修への受講費用や旅費等を補助している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修を受講できる仕組みや外部講師を招き学べる機会を設けている。また月1回行われている施設内研修は担当者制で行っており、資料の準備や教えることで自分も理解を深められるよう考慮している。ペア研修では、経験の浅い職員と中堅職員が研修テーマから資料準備等を協力して取り組み3事業所で発表している。日々ケアの中で、それぞれの職員に合わせたケアの方法を学べるよう中堅職員等とのペアで実践している		

事業所名 : グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で研修会は減っている。地域密着型サービス協会(グループホーム、小規模多機能型ホーム)の研修は見合わせている。認知症実践者研修での受講など外部の研修の場での交流や久慈市認知症について一緒に考える会(NPO法人元気でらす縁:久慈市委託事業)へ出席し、ネットワークづくりを行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前から情報収集に努め、必要なニーズの把握に努めている。入所することへの不安、利用者の気持ちに配慮し安心を確保するための関係づくりに努めている。コミュニケーションを大切に、困っていること、不安、要望については、特に時間をかけて耳を傾け職員間でどのようなケアが良いのか考え、安心して生活していただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入以前より、家族様から入居前の様子や困っていること、不安なこと、要望を聞き取りしている。家族様が安心できる声かけや、要望等何でも話しやすい雰囲気づくりを心掛け、信頼関係に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様の思いや意向を把握し必要としている支援を見極め、利用者様にとって良いケアは何か常に考えている。望ましいと思われることは、家族様と相談し対応するようにしている。必要時には、かかりつけ医へ情報提供し助言をいただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの好きなこと、得意分野を把握している。各種活動では、コミュニケーションをとりながらお互い支え合い一緒に取り組んでいる。感謝の言葉を伝え、お互い様の支えあう関係を築くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や通院支援時、電話対応時には本人様の様子を伝えている。また、キーパーソンとなる家族様、その他の家族様へ月1回のお便りで利用者様の様子を写真付きで伝えている。課題も一緒に考えていただき、解決に向けて提案をさせていただくなど、本人と家族の絆を深め、共に支えていく関係を築くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスが5類となり、面会を再開している。面会や外出時は感染対策に考慮しながら、家族様の通院付き添いや外出・面会等、関係が継続されるよう支援に努めている	病院への通院時に家族と会うのが最も馴染みの人と会う場面となっている。通院の際に利用者の馴染みの場所に寄られたりしており、今年は選挙の際に不在者投票をしてきた利用者もおられる。昨年は、コロナが陰性だったためご自宅に戻り家族との時間を過ごされた利用者もおられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの認知の症状や個性、相性を考慮しテーブルの配置や席を考え良好な関係が築けるよう支援に努めている。また、新しく入居された利用者様には、細やかな観察や希望に耳を傾けコミュニケーションがスムーズにできるよう、職員が間に入り関わり合いがもてるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了となられた利用者様の家族様へ、その後の状況を伺ったり相談に応じている。また体調の変化によるサービス移行時には、情報提供をし他のサービスへスムーズに繋がるよう支援を行っている		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様から情報を得たり、利用者様一人ひとりの日常生活の様子や会話に留意し、意向や思い等の把握に努めている。ミーティングや研修時に情報を共有している	認知症への対応の基本は、職員一人一人が利用者の心に寄り添い、利用者の言葉を傾聴することと考えている。お茶の時間には職員も一緒にお茶を飲み、会話や仕草から一人一人の思いや意向の把握に努めている。また、業務の都度、汲み取った思いや意向を各利用者ごとの「ケース記録」に記載することとしており、他の職員は業務前にその内容を確認するほか、毎朝のミーティングでも確認を行い、利用者の思いや意向を職員間で共有している。	
----	-----	--	---	--	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様やサービス利用時の様子を担当ケアマネジャーから情報収集している。利用者様から暮らしの様子の聞き取りや日々のコミュニケーションを通して、利用者様を深く知るよう心掛けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子、体調や心身状態を記録し、日々の生活状況から利用者様個々の現状の把握に努めている。職員から情報収集しケアに反映している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者・管理者・職員(必要な場合は作業療法士・看護師)がそれぞれの専門性を活かし現状に合った目標設定や課題解決の方法を話し合っている。家族様と利用者様と一緒にプランの確認や検討を行い、変更や加える課題があれば即時に書き加えサービスにつなげている。家族様と利用者様にわかり易い介護計画作成に努めている	ケアプランは、利用者自身が必要な活動を行うためにどのように支援を行うか、その目的を明確に記載しようとする、方針である。そのため、利用者や家族、職員それぞれがケアプランを見れば具体的にどのようなケアが行われているかが理解できるよう、目指す活動ごとに必要な行動を具体的に記載している。また、利用者と職員が行うことを区分して記載し、利用者の自立を妨げないよう、本人が意欲を出してもらえるような形で作成している。なお、月1回、職員がモニタリングを行い、その結果を整理してケアプランに反映させている。「ケース記録」に記された思いや意向も組み入れ、利用者が楽しいと感じられる部分を取り入れている。また、現在、職員1名が利用者1名に対応してアセスメントができるようにシステム化に取り組んでいる。見直しは、6ヵ月毎を基本としている。	一つひとつのケアを行う目的が明確にされていることなど、利用者や家族、そして職員にとっても、何故そのケアを行うのか理解しやすいケアプランである。短期目標とのつながりを理解しやすい方法であることから、今後の地域における普及も効果的であるものと期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を細やかに記録し、毎朝のミーティングや申し送りノートで情報共有している。また、職員の気づきや工夫で援助メニューの見直しや検討を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況や利用者様の体調に合わせ通院の送迎や付き添い等の対応をしている。また金融機関の手続き等、その時々生まれるニーズに対応できるよう努めている		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理・美容院への通いやかかりつけ医をこちらの都合で変更しない方針だが、コロナ禍影響で馴染みの理・美容院利用は難しい状況となっている。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行を受け、入所前から利用していた地域資源とのつながりをなるべく絶やさぬよう取り組んでいきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医の確認をし受診されている。家族様が付き添いの際には、ご家族へ情報をお伝えし、かかりつけ医へ相談できるようにしている。状態変化時には、電話でかかりつけ医へ相談できる仕組みが出来ている。必要に応じて職員が付き添い家族様と一緒に様子を伝えている	かかりつけ医あて連絡票として、「医療と介護の連携シート」を作成している。身体の状態や困っていることを上手く伝えることが難しい利用者もいることから、その状態が一目で理解できるようにしているほか、ケアする側としてかかりつけ医に確認したい留意事項なども記載して、通院のつどかかりつけ医に渡すようにしている。法人内の隣接事業所に常勤看護師がおり、通常の医療面での相談を行っている。歯科は、通院対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気づいた状態を職員間で共有、法人看護師へ相談や状態を見てもらい受診につなげることができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、ひだまりの生活の様子や家族様の状況等を情報提供し、安心して治療ができるよう支援している。また医師説明に同席させていただくなど、医療機関と連絡を密にし入院状況の確認や退院後の生活について相談する等、病院関係者との関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を提示し、家族様等へ事業所で「できること」「できないこと」を十分に説明している。終末期を迎える利用者様とその家族様には考えられる対応について説明し確認を行っている。医師からの医療的見解を踏まえた上で話し合いを重ね、今後の方針を決め支援している。また利用者様の体調変化時にはいつでも医師と相談できる体制であり、病院と連携しながら援助できている	現在は看取りまでは行っていない。運営法人は、同一敷地内でデイサービスセンターや小規模多機能ホームも運営し、これら施設には作業療法士や看護師もいることから、利用者の体調不良時には、それら専門職職員にも利用者の状態を見てもらった上で、かかりつけ医に電話照会している。十分なデータを伝えられることで、短時間でかかりつけ医からの指示を受けられるような仕組みとなっている。	看取りについては、国の動向からも、実施する施設も徐々に増加していく可能性もあり得るが、どのような方向に進むか未知数な部分もある。今後、看取りを行うことになった場合の体制や仕組みについて情報収集等学習を進めるなど、順次検討を進められ、動向に応じて対応できるよう準備しておくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の研修、更新研修を受講し伝達講習を行っている。事故発生時や救急車通報時に備え、フローチャートにより落ち着いて正確に伝えられるよう、施設の住所等を職員が目につくところに貼り全職員が適切に対応できるようにしている。また、病気の知識や応急処置の研修を行い対応できるよう備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中・夜間想定火災避難訓練や水害時の避難訓練を実施している。地域の方との協力体制も得ることができている。防災委員会が中心となり計画やマニュアルの整備を行い、研修会を実施し避難場所・避難経路・持ち出し物品等全職員が把握できるようにしている。	位置的に久慈川に近く、ハザードマップ上付近一帯は浸水想定区域に指定されている。これまで堤防を越えて浸水したケースはないが、昨年は2回、高齢者避難指示が出されており、そのつど、実際に避難している。その結果を踏まえ毎回整理しており、避難行動はレベルアップしているが、避難時の持ち物リストで、ポータブルが無い、リストをチェックする者を定めていない等の改善点が複数あった。今は先発隊と後発隊が持つものを区分してリストを整理している。避難先は社社の社務所であるが、長期の滞在は困難なため、老健と特養の2箇所に協力施設になっっている。夜間の避難訓練も職員のみではあるが実施しており、より短時間での避難になるよう現在改善を進めている。火災の避難訓練では、運営推進委員会委員になっている民生児童委員の方が声掛けをされ、近所の方々の協力を得ながら訓練を行っている。	実際に避難を経験され、そのつど結果を整理して、実際の場面に耐えるよう行動やマニュアル、リストが毎回改善され、災害対応の向上に努めている。近年は、どこでどのような災害が発生するかわからないような状況にあることから、今後も想定以上の場合にも対応できるように、引き続きレベルアップを図られていくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念に基づいた感謝と尊敬の心を常に意識して支援している。言葉づかい、声のトーンや態度に気をつけ入浴時、トイレ時、着替え時などプライバシーの配慮に気をつけている。居室入室時には利用者様へ声掛けし入室するようにしている。接遇やコミュニケーションの研修で支援について見直しを行っている	毎年、「ひだまり研修」として年間の研修計画をたて、月1回、接遇やコミュニケーションの研修を実施しており、人格の尊重とプライバシーの確保もテーマとしている。特に毎回職員1名が講師となり、自分で学び講師を担うことで理解が深まっている。また、身体拘束防止委員会では3ヵ月に1回研修を行い、特にスピーチロックの研修では、一人一人の理解が深まるよう、具体的な事例をもとに利用者役と職員役を演じての実演研修も行っている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる言葉がけや、表情や様子から知り得ることを支援に活かしている。また日常の会話に関心を持ち、会話の中や生活の様子から希望や思いを汲み取り、自己決定ができる声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの思いや希望を優先し、支援ごとに声かけと意向を伺い一人ひとりのペースを大切にして希望に沿った支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が長年馴染んだ身だしなみやおしゃれ・色の好みや・履物を楽しむことができるよう、季節に合わせた好みの服を選んでいただきたく、利用者様が衣類の選択することが困難な場合は職員と一緒に選び、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりの咀嚼力・嚥下状態や食事制限、状態に合わせた食事形態で提供している。盛り付けは、美味しく見えるよう盛り、特にきざみ食の盛り付けは、他の方と差異がないよう配慮し盛り付けるようにしている。旬な食材を取り入れたり、菜園で収穫した食材を提供したり、その日のメニューをホールに貼り出し、音楽やラジオを聞きながら食事している。また食事の下ごしらえや片づけを一緒に行っている。中庭菜園の収穫野菜を利用者様と一緒に調理し食卓に出したり、食事が楽しみとなるような支援や食後の食器拭きの片付けをしていただいている	年々高齢化が進んでおり、どうしてもきざみ食が多くなっている。以前は、外に出て道の駅などでソフトクリームを食べたりもしていたが、現在は観光客が多く、外出が不安になっており、中庭でかき氷を食べたりしている。そのほか、時節ごとに、地元で伝わるおやつとして、へっちょこ団子や桜餅などを利用者と職員と一緒に作り楽しい食の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録を行い全職員が把握できている。残量が続いたときは咀嚼力・嚥下状態、体調や義歯の具合等要因を職員間で話し合い食事形態の変更をしたり、ご本人へ伺い状態に気を付けている。また摂取不良続く場合、担当医へ相談しエンシュアリキッドを処方していただいている。水分確保は、夜間帯や起床時にも勧め特に夏場は気をつけて支援している		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりの状態を把握し、毎食後の口腔ケアの声かけや支援をしている。義歯洗浄剤を使用し義歯・口腔内の清潔保持・義歯の状態の確認に努めている。唾液の分泌を促すよう、毎食前に嚥下体操を実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し排泄のパターンを把握している。トイレへの声かけするなど、トイレで気持ちよく自立排泄ができるよう取り組んでいる。失禁がある方は不快のないよう直ぐ交換している。また、水分摂取や食物繊維の提供、運動により便秘の予防に努めている	排泄チェック表により、利用者個々の状況を把握しトイレに誘導しており、水分チェックも時間設定しながら気を付けている。ポータブルトイレの使用はなく、ほぼ自立に近い状態にある。おむつが2名、その他はリハビリパンツないしリハビリパンツとパッドである。日中は、声掛けをすれば自分でトイレに行っている。夜間は、おむつの2名以外は、センサーが鳴った場合に職員が同行してトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便時には便の状態の記入、排便チェックで排便の有無の把握をし、水分摂取や食物繊維の提供、運動により便秘の予防に努めている。便秘が薬の副反応と思われる場合は、かかりつけ医へ相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	週3日以上の入浴を基本とする中で、個々の希望や状態に合わせて気持ち良く入浴していただけるよう支援している。入浴日には『今日は、お風呂の日です』の掲示をし、季節時には菖蒲湯、柚子湯を取り入れ季節を感じていただき、コミュニケーションをとりながら、安全に配慮しリラックスして入浴していただけるよう支援に努めている	入浴は、週3回、月曜・水曜・金曜の午前中を基本としているが、職員のシフトで動いたり、午前中に入れず午後になる場合もある。貧血気味等で今日は入らないというケースも含め、利用者の意向を第一に柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的リネン・パジャマの交換を行い、安眠できるような室温、寝具等の調整を行っている。発汗の際には清拭や衣類・リネンの交換等し安眠できるよう努めている。安眠へ繋がるよう日中は各種活動へ参加していただいている		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ポーチには薬名・効用・用量を記し服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。お薬情報は全職員がいつでも見れるようにしている。利用者様が自分で薬を確実に飲んでいただけるよう小カップを用い飲んでいただいている。誤薬・飲み忘れがないよう2重・3重に確認し記録している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の得意なこと、好み、やりたいこと、やっていること等、役割を遂行し、張り合い、満足感、喜びにつながるよう支援している(共有スペースの廊下の清掃、テーブル拭き、フェイスタオル干しやたたみ物、食材の下ごしらえ、食器拭き、電子ピアノの演奏等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍は外出を自粛していたが、新型コロナ感染症が5類へ移行後は外出を自由にしている。季節に合わせ桜や紅葉を観にドライブに出かけている。中庭菜園の野菜収穫や敷地内散歩、お祭りドライブなど楽しみを感じていただけるよう工夫し支援している。屋外散歩を希望されている利用者様は職員と一緒に出かけている(他:みずき団子、節分、お茶会、誕生日会、ハロウィン等)	コロナ禍前はコンサートや中学校の文化祭にも出かけていたが、現在は季節ごとのドライブが主で、花見・紅葉狩り・秋祭り・山車巡り見学などを楽しんでいる。そのほか、若い職員からハロウィンをしたいたいという提案があり、試しに利用者、職員全員が仮装してみたところ、意外に皆さんに好評で、楽しい一夜を過ごせた。また1名散歩が趣味の方がおり、週に1回程度、職員が同行して河川敷まで30分の散歩を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用でき、いつでも必要なものを購入できることを伝えている。希望時は職員が買い物支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話を使用できるよう支援している。携帯電話を持参されている利用者様は自室に置かれ利用されている		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を取り入れた明るい建物で室温、湿度、空調の管理を行い快適に過ごしていただけるようにしている。利用者様が取り組まれた塗り絵作品・壁画の掲示、季節の花を飾り季節感を採り入れている。廊下にソファを設置することで、くつろいだり、利用者様が和んだ雰囲気でのコミュニケーションが図られている。共有空間のホールからは菜園や季節の花が見え、四季を感じ居心地よく過ごしていただけるようにしている	ホールは南向きで採光も良く、天井は吹き抜けで開放感があって、季節の装飾品や利用者手作りの作品も掲示され、温かみのある空間になっている。体調次第であるがホールのモップ拭きを日課としている利用者もおり、ホールをきれいにしみんなが居心地よくするのは利用者の一員としての自分の役割という意識の現れと思われる。ホールはみんなの大事なスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのソファや椅子は、独りになりたい時や気の合った利用者様同士会話を楽しめる居場所となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、写真や置物など馴染みの物を持参していただき、居心地よい居室になるよう工夫したり、馴染みの物がそばにあることで不安や心理・行動障害の出現が抑えられるようご家族様と相談し置いている。趣味の塗り絵や読書を居室でされたり、好きな電子ピアノを持参し楽しませている	居室には、ベッド、タンス、パネルヒーターが備え付けられており、家族の写真、お気に入りの置物、ぬいぐるみ、お位牌など自由に持ち込んで、安心して心地よく過ごせる居室をつくっている。中には電子ピアノを持ち込んで時々弾いて楽しんでいる90代の利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は明るく、共有空間は手すりがあり段差のないバリアフリーで安全に歩行できる環境となっている。また「お風呂の日です」の掲示、トイレの場所の表示等わかるよう工夫している。利用者様の状態に応じて歩行の見守りや付き添いを行い安全に配慮している		